

デフリンピック

写真提供：一般財団法人全日本ろうあ連盟

～4年に1度開催される聴覚障害者の世界最高峰のスポーツ祭典～

Summer games

◆第23回大会サムスン2017：平成29年7月18日～30日、トルコ・サムスン市で開催



実施競技(21競技)：陸上、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレーボール、ボウリング、サイクリング、サッカー、ゴルフ、ハンドボール、柔道、空手、マウンテンバイク、オリエンテーリング、射撃、水泳、卓球、テコンドー、テニス、バレーボール、レスリング(フリースタイル)、レスリング(グレコローマン) ※アンダーラインが日本選手参加種目

全国各地の大学生、大学院生大活躍！！

陸上4×100mリレー 金メダリストインタビュー
設楽 明寿選手(筑波技術大学大学院1年)



- 1 水泳(男子) 左から
茨隆太郎選手：東海大学大学院2年
金持義和選手：大阪体育大学大学院2年
藤原慧選手：日本大学4年
(写真なし)星泰雅選手：仙台大学1年
- 2 水泳(女子)
久保南選手(右端)：東海学園大学3年
藤川彩夏選手(左2人目)：東京女子体育大学4年
- 3 卓球 川崎瑞恵選手：大正大学4年
- 4 サッカー
岡田侑也選手：東海大学3年
岡田拓也選手：中央学院大学3年
林滉大選手：亜細亜大学2年
伊丹秀行選手：学習院大学1年
- 5 バレーボール女子
村木玲奈選手(右5人目)：淑徳大学2年

- 6 陸上200m、400m
山田真樹選手：東京経済大学2年
- 7 陸上800m、1500m
森光佑矢選手：金沢星稜大学4年
- 8 陸上800m、1500m
岡田海緒選手：日本女子体育大学2年
- 9 陸上ハンマー投げ
村尾菜優選手：四国大学4年
- 10 陸上4×400mリレー
池田ブライアン雅貴選手：慶應義塾大学2年
- 11 陸上棒高跳び
佐藤麻梨乃選手：横浜国立大学4年
- 12 テニス
笹島航太選手：京都産業大学1年

—金メダル獲得おめでとうございます！大会を振り返ってみていかがですか？
ありがとうございます。まだ実感が無いので何とも言えませんが(笑)、嬉しいです。しかし、世界新を出せなかったこと、自分がベストな状態ではなかったこと、個人種目に出られなかったことで、心残りのある大会でした。

—今回のデフリンピックを通して得られたものはありますか？
メンタルが強くなりました。怪我した状態で決勝を走るというのは、これまでに無い初めての経験だったので、自分はいざというときはやれるのだという新しい発見がありました。また、デフリンピックで個人種目に出て勝ちたいという気持ちがこれまでより強くなりました。来年は100mで10秒台を出し、茨城県選手権大会の出場権を獲得、2年後は本格的に、関東選手権、順調に行けば日本選手権大会を目指すという競技プランを立てています。デフリンピックに出るまでは、正直言うと、申し込んだ競技会(記録会)で記録を出して身体の状態を確認するくらいで、具体的な競技目標が無い状態でした。今回、デフリンピックを経験したことで、健聴者が出る大会への出場を目標としたい、個人種目で健聴者と互角に勝負できるような力をつけたいと思うようになりました。



—大学院ではどのような研究をしていますか？
研究テーマは「短距離走における振動刺激を用いたユニバーサルスタートシステムの構築」です。現在、聴覚障害者が陸上競技に参加する際に、スタート音の代わりに使われているのが、光刺激スタートシステムです。ただし、生理学の視点から視覚よりも触覚の方が反応が速いと一般的に言われています。また、光の合図を見逃さないように目を開けたままだと、集中しづらいためではないかと考えられます。それだけではなく、光を使った視覚だと、視覚障害者は使えないということから、ユニバーサルデザインに則っていないと見ています。これらの理由により、振動を使った触覚が弱いもしくは無いという障害はあまり聞かないことから、ユニバーサルデザインに則って使える、また、光よりも身体が速く反応できるのではないかと仮説を立てています。

—デフリンピックに参加するまでの研究との両立はいかがでしたか？
結果的に、そこまでうまく両立できていなかったように思います。練習時間や練習内容を考えた上で、この時間はこの作業を終わらせるという風に、時間で目安をつけて進めていました。それでもまだ時間の使い方がうまくいかなかったことも事実です。

—大学院生活での情報保障はいかがでしたか？利用している情報保障(情報機器等)があれば教えてください。
私は大学に入学してから本格的に手話を身につけました。また、指導教員も手話に対して理解が深く、言語学の視点から学んでいる面もあり、手話がある程度できるので、打ち合わせなどもモニターに資料を映して手話で話し合っています。また、情報保障というものではないのですが、「Slack」というチャットツールを上手く使いながら場所や時間に関係なく、チャットしながら資料などを共有しています。情報保障というよりも、隔々で手話ができる、身の回りにあるソフトウェアやアプリを上手く使えたのもあり、コミュニケーションが図れます。学会発表の場合は個人で手話通訳を依頼、学会参加の場合は主催者と相談した上で要約筆記や手話通訳を依頼しています。



—今後の活動、競技の目標について教えてください。
今はまだはっきりとは言えませんが、まずは、自分が今やっている研究と陸上の2つを両立できるようにしたいので、それに向けて少しずつ始動したところです。プランとしては、3年後の世界大会を目指すというのと、4年後のデフリンピックでの個人種目出場に向けて改めてリベンジして、最後に8年後までも続けます。その後のことは考えていないですが、とりあえず、8年後まで続けるという気持ちです。

(デフ・スタディーズHP「デフリンピック金メダリストインタビュー①」より抜粋、追記)

Winter games

◆第18回大会ハンティマンシースク2015：平成27年3月28日～4月5日ロシア開催

実施競技(5競技)：アルペンスキー、クロスカントリースキー、スノーボード、カーリング、アイスホッケー
※アンダーラインが日本選手参加種目



アルペンスキー回転種目では
筑波技術大学6期生の中村晃大選手が4位入賞!!

第19回冬季大会、第24回夏季大会共に開催地未定・・・